



Title	対話における相互作用から見た「から」「ので」
Author(s)	中田, 一志
Citation	日本語・日本文化. 2022, 49, p. 71-104
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87451
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

〈研究ノート〉

対話における相互作用から見た「から」「ので」

中田 一志

0 はじめに

原因・理由表現で使われる接続助詞「から」「ので」に関わる従来の研究は文の機能的、統語論的研究から語用論的研究へと発展してきた。「p から / ので q」の p と q の因果関係あるいは理由や 根拠と結論の論理関係を話者が「主観的」あるいは「客観的」（永野 1952）に結びつけるといった機能的な使い分けは理解しやすいが、日本語学習者には使いこなしにくく、結果、多くの誤用を生むことになる。従属度が異なる二種の「から」節があるという統語構造に着目した研究（田窪 1987）は注目に値するが、学習者への教育には適用しにくい。また、学習者の興味を引く、言語行為や改まり度による使い分け（畠山 2011 等）は典型的な例には適用できるが、実際には同じ語用論的状况で、「から」「ので」が近接して出現する対話例が見られ¹、改まり度だけでは説明できない。また、学習者の無意識の誤用は日本語母語話者とのコミュニケーションにおいて様々な問題を引き起こすことがしばしば 指摘されることから、この表現の使用に関する問題は早期に解決すべきだと考える。

問題解決のためには、日本人母語話者同士が織りなす談話での「から」「ので」の使用と学習者と母語話者の接触場面での談話での使用を比較する必要があると考える。その第一段階として、本稿では、母語話者同士の談話の「から」「ので」の使用を記述することにする。

1 特に 2.5 節、2.6 節、4 節に出てくる例がそれに該当する。

データとして、複数の同じタスクを日本語学習者と日本語母語話者に課した I-JAS コーパス²、そのなかでも対話 (Interview) コーパスを利用し、母語話者 50 名のデータを使用する。通常、学習者である被調査者のデータを使用するものだが、母語話者同士の談話を観察することに主眼を置くことから、調査者と被調査者両者のデータを使用する。

1 相互作用の拘束力による分類

対話資料であるという特徴を活かし、本稿では対話相手との相互作用の中での「から」「ので」の使用を記述する。

まず、相互作用の拘束力によって談話を対極的な二つに分ける。相手から問いかけや確認要求などの反応を要求されると、話者はそれに拘束される傾向にある。しかし、談話が進行するにしたがって、話者はそこから解放され、自由に発話を展開することができる。これらを両極に据え、その中間的な位置に、相手に対して話者の理解や同意を示したり、反対に相手に理解を促したりといった相互作用があると考ええる。

これらを図式的に示すと次の通りである。以下、それぞれの談話構造の中での「から」「ので」の使用を記述する。

分 類	相手の発話に
相手からの問いかけ・反応要求に応じる談話	拘束的 ↑ ↓ 自由
相手に理解を示す談話	
相手に同意を示す談話	
相手に理解を促進する談話	
話し手が積極的に話を展開する談話	

2 本稿は、国立国語研究所のプロジェクトによる成果『多言語母語の日本語学習者の横断コーパス：I-JAS』（および検索システム）を利用して行われたものである。

2 相手からの問いかけ・反応要求に応じる談話

インタビュー形式からなる対話資料では、基本的に調査者による質問、それに対する被調査者による回答という形式という構成になっている。その談話構造は、相手からの問いかけに対する答え、あるいは、相手が反応要求するときの反応が中心的なものである。

そのとき、答えや反応の部分で話者が「から」あるいは「ので」を使う場合、次のような可能性が予想できる。

- ① 「p から q」を一回使用する談話
- ② 「p ので q」を一回使用する談話
- ③ 「p から q」のみ複数回使用する談話
- ④ 「p ので q」のみ複数回使用する談話
- ⑤ 「p から q」が先行し、後に「p ので q」が使用される談話
- ⑥ 「p ので q」が先行し、後に「p から q」が使用される談話

以下、順にそれぞれの談話における「から」あるいは「ので」の現象を観察する。

2.1 「p から q」を一回使用する談話

相手からの問いかけに話者が答えるときは、次のような「から」の使用を見ることができる。「から」が受ける前件 p には共通の現象が見られる。

(1) JJJ28-I³

5750-C どちらがたくさんあった方がいいですか?【問いかけ】

5760-K (a) 時間ですね

5770-C 時間ですか

5780-K はい

5790-C お一時間があつたら

5800-K (b) え、それは時間があればお金も稼ぐことができるから

5810-C うんうんうんうん

(1) では、(b) の「から」節がその主節 (a) が表す判断の根拠となっている。「から」節には条件表現が使われ、「時間があれば、お金を稼ぐことができる」という一般的な考えに基づいて、(a) の「お金より時間を優先する」という判断をしている。

(2) JJJ44-I

2510-C ではですね、これから一きつと研究者になられて一まあ十年二十年後は、たぶん新しい家族と一緒にね、住んでらっしゃるんじゃないかなと思うんですけど、えとその時に、まああたら、しくね、おうちを、買って、まあおうちを建てるとかして、あの居を構えるとしたら、田舎と一都会と、だったら、どっちがいいと思いますか?【問いかけ】

2520-K あーそうですねー、(a) もうその時はその時の一えーと一、職場も、あるでしょうから

2530-C あーそうですよね

2540-K わ、(b) そこに、近い、ところが一番ですね

3 例の記述には、I-JAS の対話 (I) データの行番号を利用した。JJJ で始まるデータは日本人母語話者を表し、2桁の数字は被調査者の識別番号、続く英字 I は対話であることを表す。続く 4桁の数字は発話の識別番号、そして最後の英字は C が調査者、K が被調査者を表す。なお、本稿では便宜的に、「被調査者の識別番号 -I」と「発話の識別番号 -C/K」を分けて記述している。また、記述においてはできるだけオリジナルを尊重するようにしたが、発話が重なった対話相手の笑い声や相づちは適宜削除して読みやすくした。

(2) では、(a) の「から」節には条件を表す専用の形式がないが、傍点を付した「その時は」が条件表現と同様の働きをしている。つまり、「二十年後になっても、職場がある」という条件が成立すれば、話者は個人的な考えにより、(b) の判断をしている。また、この「から」節には「ので」節にはない統語的特徴として推量の助動詞が表れている。

(3) JJ18-I

3290-C (前略) はい、じゃあえっとー、今度はこれから十年とか二十年後に、どこかに住むとしたら、田舎がいいか都会がいいか、どちらかありますか【問いかけ】

3300-K そうですねー、まあうちちょっとあの、ネットワークとゆうか、えーと、まあ何でもあんまり通信もーあどーいろ、いろいろえーと流通とかそうゆうものが良くなればー田舎に住みたいとは思いますが

3310-C うんうんうんうん、なるほど

3320-K まあ都会の方が、私はえーと、よくいろいろまあ美術館だの、あの一劇場だのばっかり通っているんで都会の方がいいと思うんですけどー、(a) まあ歳取ってきたらあんまりできなくなるだろうから、そしたら
い田舎の方が、いいかな、とは思いますが

(3a) には、(2a) と同様に「から」節に推量の助動詞、(1b) と同様に条件表現が現れている。「歳を取ればあまり美術館や劇場に通うことができないだろう」という条件が成立すると、個人的とも一般的ともとれる考えに基づき、話者は「田舎に住む方がよい」という判断をしている。

ここでひとまず、「から」の使用について予測を立てておく。これまでの例では、上の「考え」を「価値観や信念」と置き換えることが可能である。したがって、「から」が使われると、一般的な価値観や信念(真理)、あるいは話者の個人的な価値観や信念に基づいた推論がなされると考えられそうである。ただし、一般的か個人的かの違いは、「から」の使用に関していうと、別ものではなく、文脈によってその解釈がなされると考える。つまり、(1) の解釈のように、個人の価値観や信念を他者も信じれば、一般的な読みがなされ、(2)(3) の解釈のように、

そうでなければ単なる個人的な読みがなされる。さらに言うと、「から」を用いることによって、「話者の価値観や信念」に関連した推論が表現される。

「話者の価値観や信念」との関係から、「から」節に現れる推量の助動詞について改めて考えてみる。(2a) から伺える話者の価値観は「職場と住居は近い方がよい」というものだろう。話者は「将来も今の職場に勤めているだろう」ということを予測し、その成立を条件にして、やはり自らの価値観の通り、判断するという解釈ができそうである。

(3a) から伺える話者の価値観は「活動的なうちは都会で、そうでなくなれば田舎で暮らしたい」というものだろう。話者は「歳を取れば、将来美術館や劇場に通うような活動ができないだろう」と予測し、その成立を条件として、やはり自分の価値観の通り、判断するという解釈ができる。

(2a)(3a) の「から」が条件的な解釈になることは、それが (2)′(3)′ とほぼ同義であることから確認できる。また、(1ab) にはその解釈がないことも確認されたい。

(1)′ ?? 時間があればお金も稼ぐことができるならば、時間だ。

(2)′ そのとき職場があれば、住居は職場に近い方がよい。

(3)′ 歳を取って活動があまりできなくなるならば、田舎で暮らしたい。

以上をまとめてみる。「から」は、(1) のように、話者の価値観や信念そのものを根拠とする場合と、(2a)(3a) のように、話者の予測の成立を条件に価値観や信念にしたがった判断をする場合があること、いずれにしても「から」が使われると、話者の価値観や信念が明示的に現れることを観察した⁴。この点に関しては引き続き「ので」との比較で明らかにする。

2.2 「p ので q」を一回使用する談話

ここでは、相手からの問いかけや反応要求に、話者が「ので」を使って答える

4 原因と結果、理由と帰結の関係について、永野(1952)は、「(「ので」が「客観的」に結びつけるのに対して、)「から」は「主観的」に結びつけるとし、逆に、国広(1992)は、「(「ので」が「主観的(間接的)」に結びつけるのに対して、)「から」は「客観的(直接的)」結びつけると主張している。本稿は「から」は話者の価値観や信念を拠り所にする形式であるとするが、必ずしも排他的な解釈になるのではなく、他者の価値観や信念と重なる場合は、一般的な解釈になると主張するものである。

談話を観察する。結果、「ので」の使用にも共通の特徴があることがわかる。

(4) JJJ45-I

(今日の昼食は済んだかと尋ねられ、K が昼食について語る)

0130-C あ、朝もパンですか？

0140-K 朝は食べないことが多いです

0150-C あ、そうなんですか？

0160-K はい、はい

0170-C 一日、二食ですか【問いかけ】

0180-K そうですね、(a) ちょっと朝がちょっとつら、あの一あんまり食べる余裕がないのでつい、食べない、ぬい、抜くことが多いです

(4) では、「一日二食か」という相手の問いかけに対して、(a) で「朝食を抜くことが多い」という個人の習慣 q を答えている。それは「朝は食べる余裕がない」という話者の個人的な理由 p によるものであると解釈される。ここで「時間的な余裕がなければ朝食を抜いてもよい」といった話者の価値観や信念に基づいて記述しようとしていないことは、副詞「つい」によって確認できる。

(5) JJJ03-I

(印象に残っている先生はいるかと尋ねられ、K が高校のときの先生について語る。)

2910-C 同窓会とかで会ったりとかも【問いかけ】

2920-K 先生、そうですねきょねん？何年前、三年ぐらい前に一応、その、(a) まあクラス替えがなかったんで、学生間はすごい仲良くて、学生だけで集まったりはするんですけど、先生は呼ばなかったですね、はい

2930-C あーそうなんですね、へーでも三年間ね、クラス替え無いってちょっと珍しい、ですね【反応要求】

2940-K (b) あーなんか一応この受験に特化しますみたいなクラスに一応いたんで

2950-C あーなるほどなるほど

(5)は相手から「問いかけ」と「反応要求」がなされる談話であるが、「その先生とは同窓会などで会ったりするか」という相手の問いかけに対して、(a)では「同窓会をしたけど、そこには先生を呼ばなかった」という個人的な出来事を答えている。実際は、「同窓生は仲が良く、その同窓会は同窓生だけで集まった」ことが述べられ、それは「三年間クラス替えがなかった」という個別的な理由によるものであると解釈される。続けて、相手はその珍しさに関して反応を要求し、それに対して、(b)で「受験コースのクラスにいた」という話者の個別的な理由 p によるものであると答えていると解釈される。そこには「クラス替えがなければ学生間の仲が良い」という信念や「受験コースのクラスは必ずクラス替えがない」という信念があるわけではなさそうである。それは (a) の「まあ」、(b) の「なんか」「一応」などの複数のフィラーに近い感動詞、副詞によって確認できる。

(6) JJJ24-I

(最近熱中していることを尋ねられ、K が趣味のエスペラント語の話をする。)

0490-C あー、難しいんですか？

0500-K いや、むしろ簡単に作られてる言語で

0510-C みんなが覚えやすいようにというような

0520-K そうそうそう、はい

0530-C へーそれは、単語とかもすごいたくさん、あるん

0540-K たくさんあるんですけども、ルールがもう、きっちり決まってて、これを付けたら形容詞になるとか、これを付けたら、ええ

0550-C 単純なんですねすごく【反応要求】

0560-K ええ、副詞になるとか、(a) ええ、すごくルールが例外が一つもないようにできてる、ので

0570-C んー、活用とかはあるんですか

0580-K 活用はないですね、**

(6)では「エスペラント語が単純である」という相手の理解に対して反応を要求されたのに対して、(a)にあるような一般的なことを話者は理由として挙げな

がら、相手の理解を「肯定」している。ここでは「エスペラント語には例外がないような規則でできている」という一般的なことを信念として前面に出してもよさそうだが、話者はそのような態度をとっていない。そのことは「ので」の前にポーズがあることで確認できる。

(7)JJJ12-I

0570-C あ、作ろうかななんですか、すごーいへー、やっぱり、まだまだ駄目なんですか？コンピューターは{笑}【問いかけ】

0580-K やあの (a) 今今コンピューターとプロ、とやるとコンピューターがか、四勝一敗とかそういうようなレベルに来てるので、はい

0590-C ああ四勝一敗でコンピューターが、勝つんですか？

0600-K コンピューターが勝つぐらいなので

(7)では「人との将棋の対戦ではまだコンピューターはダメか」という相手の問いかけに対して、(a)で「コンピューターが四勝一敗のレベルだ」という一般的なことを話者は理由として挙げながら、相手の理解を「否定」している。ここでは話者には「コンピューターの方が人より強い」という信念があるので、それを全面に出してもいいのだが、否定的な答えをする理由となるため、それを全面に出さない方策を採用していると考えられる。そのことは後続する「はい」が肯定を表さず、相手にターンを譲るサインとしての意味しかないことから確認できる。

(8)JJJ46-I

0650-C じゃ、あの今度はですね、JJさんが今熱中してらっしゃることが何かあったら教えていただきたいんですけど【問いかけ】

0660-K そうですね、熱中、そんなにすごく熱中してるってゆう程でもないんですが、何でしょうね、えーと (a) 私あのカードを、手作りのカードを作るのが好きなので

0670-C えーそうなんですか、手作りのカードってゆうと

(8)では「熱中していることを教えてくれ」という相手の問いかけに対して、明示的な返答はしていないが、(a)で「手作りカードを作ることが好きだ」という個人的なことを話者は理由として挙げつつ、「手作りカードを作ることに熱中している」ことを暗示している。「好きなことならば熱中する」という価値観や信念はありそうなので、「手作りカードを作るのが好きだから、作っています」といった文もできないわけではない。しかし、この文脈では傍点を付したところのように、「熱中している程ではない」とやや消極的な態度で述べていることから、話者の価値観を全面に出すような態度ではないということが確認できる。

以上をまとめると、特に相手に話者の価値観や信念を披露する必要がない、あるいは披露することを避け、因果関係を記述するときに、「ので」が使われる⁵。

2.3 「p から q」のみ複数回使用する談話

今回の資料には問いかけに対して、「p から q」を複数回使用する例は見られたが、純粹に「から」だけが使われる例は見当たらなかった。後で見る(25)は、複数の「から」が使われ、「ので」が一回使われるというもののだが、それについては4節で述べる。

2.4 「p ので q」のみ複数回使用する談話

相手の問いかけや反応要求に対して、複数回「ので」を使用して答えるという談話はよく見られる。

5 花井(1990)は、「ので」が「基本的に或情報を話し手領域のものとして相手に送りどける標識」(p. 61)と記述していることと、本稿のこの記述は近いように思われる。ただ、花井の「情報」と本稿の「価値観や信念」は根本的に異なる。「価値観や信念」は話者が選択的にそれを押し出すことも押し出すのを控えておくこともできるという表現に関わるものである。

(9) JJJ47-I

0250-C JJさんは昨日は何をなさってたんですか？【問いかけ】

0260-K はい、えー昨日は、えー自宅で仕事をしていたんですが、あの夜に予定がありまして、えーと (a) もう今から、二十年ぐらい前に働いていた、えーところ、あ、とはたらい、一緒に働いていた人達と、ま久しぶりに、あの集まる、えーとゆう約束があったので、ま夜は外出をする、えーしました

0270-C んー

0280-K でただ、その前に、えー昨日は実は雪がとて降るとゆう話があり、えー今日、あの一朝、(b1) 今日の朝にはきつと積もっているだろうと、ゆうことを天気予報が盛んに

0290-C んーんーんーんー

0300-K ゆっていましたので、(b2) 私はスノーブーツを持って、いませんでしたので、えー (b3) もうこれは、いよいよスノーブーツを買わないと、えーちょっと外を歩くのが危険になるかもしれないと思ったので、そのえー食事の前に、えっとスノーブーツを買いに行きました

0310-C へー

0320-K はい、そしてスノーブーツを、ま買ったスノーブーツをその場で、「これを履いて帰ります」とゆって、履いて、食事に行って、でも雪は止んでしまいました

0330-C そうですね

0340-K はい、雨になってしまいました

0350-C あーそうですね

0360-K はい、それで一実是一件目のお店で私はその、自分が履いていた靴を入れた、あの一入れてもらったそのお店で買った袋、ですね、それを一件目のお店に置いてきてしまいました

0370-C あら、はい

0380-K でま (c) 二件目を出たところで気付いたので、一件目に戻って、あの無事に家に持って帰りましたけれども

0390-C はー

0400-K はい、なんかそんな、ちょっとお天気に振り回されました

(9) では、「昨日何をしたか」という相手の問いかけに対して、(a)で「夜に外出した」、(b)で「食事前にスノーブーツを買いに行った」、(c)で「無事、家にそれを持って帰った」ことを話者は答える。その理由として順に、(a)で「前一緒に働いていた人と約束をしていた」、(b1, b2, b3)で「天気予報が降雪と言っていた。そして、自らはスノーブーツを持っていなかった。そして、スノーブー

ツがなければ危険だ」、(c)で「途中の店に履いてきた靴を忘れたことに気付いた」という個人的なことを話者は理由として挙げている。ここは因果関係のある出来事を述べるという談話であり、話者の信念や価値観を披露する必要はないことから「ので」が使われていると考えられる。

(10) JJJ19-I

3070-C あ、そうなんですねー、へー、あじゃあちよっと今いい話だったんですけども {笑} そのまあ学校生活でー、まあ思春期ってこともあると思いますが、まあ、大変だったこととかやだったこととかー、悲しかったこととかなんかそうゆう話もありますか【問いかけ】

3080-K あーえーとなんかたくさんありすぎて {笑} なー何ですかねーなんかいつとも楽しくなかったんですよー、すごく不機嫌な子でー、何が不機嫌あ、ずーず、あー何が辛かったわか、わかな、(a) 友達付き合いが辛かったです、うん、すごく社交的でなかった **ので**

3090-C あー特にじゃあ中学校ってことですか

3100-K 中学校ですねー

3110-C へーあーまあ中学校ほんと難しいですね

3120-K なんかな、何話していいのかもわからな、いしー、こう、なんかくら、(b) クラスの、こうクラス、替えが、あった時に一仲のいい友達ーとけっこう離れ離れだったりもした **のでー**、なんかクラスではけっこうもうすごい、ぷっつり黙って、んー何も言わないような、感じでしたねー

3130-C ふーん、じゃそれが変わったのが高校、うん

3140-K そうですねー、うんうんうん部活に入ったのが大きかったですかね、やっぱり、なんか

3150-C えん演劇部

3160-K (c) 演劇部で、こうアウトプット求められる、 **のでー**、んーやっぱりなんかこう、何かこう自分の中で表現するってゆうことがーやっぱりゆ、スムーズにできるようになったんですかねー

3170-C なるほどー、大きなじゃあ転換だったんですよーそが

(10) では、「学校生活で大変だったこと」についての相手の問いかけに対して、(a)で「友達付き合いが辛かった」こと、(b)で「クラスでは黙って何も言わない子だった」こと、しかし、(c)で「自分が表現できるようになった」ことを話者

は語る。その理由として順に、話者は「社交的でなかった」、「クラス替えて仲のいい友達と離れ離れになった」という個人的なことや、「演劇部ではアウトプットが求められる」という一般的なことを理由として挙げている。ここでも因果関係のある出来事を順に述べるという談話であることから、話者の信念や価値観を表す必要はないから「ので」が使われていると考えられる。

以上をまとめると、特に相手に話者の価値観や信念を披露する必要がない因果関係を続けて記述するときに、「ので」が連続的に使われる。

2.5 「p から q」が先行し、後に「p ので q」が使用される談話

相手の問いかけや反応要求に対して、まず話者が「から」を使って答え、後に「ので」が後続する談話を観察する。両方を使い分ける話者の基準を観察するには、次の小節と合わせて最も重要な談話だと考える。

(11) JJJ47-I

4790-C じゃそれとちょっと似た質問かもしれないんですが、お金と時間、どっちが、たくさんあったほうがいいと思われませんか？【問いかけ】

4800-K (a1) あ、時間です

4810-C あーどうしてですか？【問いかけ】

4820-K (a2) えー、やりたいことがいっぱいあるから

4830-C なるほど、そうですね

4840-K ってゆうか、はい、お金は一、あってもいいと思うんですけど一、(b) お金ではできないことが時間があつたらできる、と思うので、でそれもあって田舎に住みたいような気がしますね

4850-C あーなるほどねー

4860-K つまり、都会にいと、まやり方だと思うんですけども、都会にいとお金で解決することって、たくさんあると思うんですけど、田舎に行つて、まちょっと、これは田舎都会と違う問題かもしれないんですけど、(c) あのお金をかけず生きるってゆうことを、考えられないかなーってゆう

4870-C なるほどー

4880-K のがあるので

4890-C なんか共通した思いをずっと感じますね

(11) では、「お金と時間のどちらがたくさんあった方がいいか、どうしてか」という相手の問いかけに対して、最初に (a) で「から」を使っているが、この部分は総合的な回答のように聞こえる。それは「やりたいことがあれば時間が必要である」という話者の価値観や信念（それは一般的な価値観や信念とも一致すると考えられる）を根拠として答えているからだと考えられる。さらに、話者は、(b) で「時間があれば、お金でできないことができる」、(c) で「お金をかけずに生きることを考えていきたい」と具体的な回答をしているように感じる。それは (a) ですでに自身の価値観の披露が済んでいるので、同じような価値観を示す必要がなく、その価値観を具体的に説明する方がよいからだと考えられる。

(12) JJJ28-I

5750-C どちらがたくさんあった方がいいですか？【問いかけ】

5760-K (a1) 時間ですね

5770-C 時間ですか

5780-K はい

5790-C お一時間があったら

5800-K (a2) え、それは時間があればお金も稼ぐことができるから

5810-C うんうんうんうん

5820-K ですか、はい

5830-C なるほど、えでも仕事をするために、じゃあ時間が欲しいってことですか？

5840-K そうですね、仕事をするためもそうですけど、まあスキルアップとか

5850-C うん

5860-K (b) 結局はその自分自身の、力をつけることが、まあお金に繋がる、と思うので

5870-C んー

5880-K そちらの方がやりがいもありますし

5890-C うんうんうんうん

5900-K そっちのがいいと思います

(12) は、別の被調査者に対する、さっきと同じ質問から始まる談話であり、(11) と同じように、最初に (a) で「から」を使った、総合的な回答が観察される。その根拠は「時間があればお金を稼ぐことができる」という話者の価値観（他者の信念とも一致すると思われる）を基にして答えている。続いて、(b) ではその具体的で個人的な考え方が挙げられている。これは前の例と同じ理由で「ので」が使われていると考えられる。

(13) JJJ55-I

0670-C ヘー、すごいでもやっぱり疲れ方は違いますかジムで、よりは【問いかけ】

0680-K だかーらえっとー

0690-C プールの方が

0700-K そうですね、まあでも、な、何ですかね、(a) 最初ーは泳げないから、はっきり言えばほとんど泳いでないんですよ、た、(b) 立ってる時間とか休んでる時間が長いので、これ全然運動んになってないと思って、これまずいと思ってたんすけど (c) 最近まあ、のプールの端から端までは普通に泳げるようになったので

0710-C あーはい、はい

0720-K (d) そうするとどんどん疲れてくるのでー、(e) うんでも上手い人は全然疲れずに泳いでるからー、もっと泳ぎ方あるんでしょうけど、でもやっぱ、何なんだろう、ちんたら、あの一走ってる、よりかは、まああの一およご、(f) 泳ぎはなんか泳いでないと沈んでしまうとゆうか、前進まないで

JJJ55-I-00730-C そうですよ動かしてないとうん

JJJ55-I-00740-K (g) 動いてないといけないってのがあるので、うんちよつと運動になってる気がしますね

(13) では、「ジムと比べると水泳の疲れ方は違うか」という相手の質問に対して、まずは (a) では「泳げなければほとんど泳いでない」という、話者の信念でもあり、同時に一般的な信念でもあろうが、それを根拠に、(g) の後件のように「(泳げるようになると) 水泳は運動になっている気がする」と述べている。このあたりは話者が過去の自分を客観視しているかのように感じる。続いて、最近の

話者のことを具体的に記述している。(b)で「全然運動になっていない」理由として「立っている時間や休んでいる時間が長いと思った」こと、しかしながら、(g)にあるように「最近はちょっと運動になっている気がする」ことを語る。その理由として、(c)で「最近はプールの端まで普通に泳げるようになった」という個人的なこと、(d)で「(休まずに)泳ぐと疲れてくる」という一般的なこと、(f)で「泳いでないと前に進まない」という一般的なこと、(g)で「動いていないといけない」という一般的なことを挙げている。この一連の「ので」文の連続に介入するように、e)で他人のこと、すなわち「泳ぎの上手い人」についての推論が「から」で表現される。この推論の根拠はもちろん話者の信念、この場合は一般にも支持さえるであろう「いい泳ぎをすれば疲れない」ということである。

ここの二つの「から」の使用基準には違いがあるように思われる。(a)の「から」文は続く「ので」文に進むにしたがって、話者は、過去の自身を客観的に見つめる視点から最近の自分に視線に移すような流れが感じられる。それに対して、自分の泳ぎについての話の中では、(e)は他者のことに関して、自身の信念をもとに判断している。したがって、この談話のなかでは異種のものであり、2.1小節で観察した一回使用の「p から q」と同等と見做すことにする。

(14) JJJ10-I

(K が出身地の調布に名所や美味しい物があると語る。)

1750-C あそうなんですね一分かりましたーへーじゃあ深大寺の辺りは結構好きで【反応要求】

1760-K すく、そうですね (a) 友達もいますからー

1770-C あーそうなんですかその近くに、はーそのカラオケの友達ですか？

1780-K いえいえ

1790-C ではなくて(？)

1800-K あーの (b) 小学校からの友達がいるので

1810-C あーなるほどーいいですねなんかこうふるさとというか地元にそういう、場所があって

(14) は興味深い例である。K の答えである、(a)(b) で、前者では「から」を、後者では「ので」が使われている。では、この談話にはどんな流れがあるのだろうか。

(a) の「から」は、話者の価値観である「そこに友達がたくさんいればその場所が好きだ」を根拠にした判断である。「カラオケの友達」のことは前の文脈にあるので、これを聞いた相手は「その友達が深大寺あたりに住んでいる」と勘違いをする。話者はそうではなく、「小学校時代の友達がいる」ことが理由だと言う。そのとき、すでに自らの価値観の披露は済んでいるし、その価値観は「小学校の友達」に限定されるものでもないので、「から」を使わずに、「ので」を使って訂正していると考えられる。

以上をまとめておく。相手の質問に対して、まず「から」文から始めることで、話者の信念あるいは価値観を披露しながら答える。そのことによって総合的に答えたような印象をうける。それに続く説明では「ので」を使って、具体的に理由を述べる。自分のことを「から」で説明すると、客観視したように感じる。

2.6 「p ので q」が先行し、後に「p から q」が使用される談話

相手の問いかけや反応要求に対して、まず話者が「ので」を使って答え、その後「から」が後続する談話を観察する。

(15) JJJ54-I

(K が革靴は水洗いができること、革靴の乾かし方について語る。)

0570-C あーそうなんですか、なんか洗っちゃ、ったら、なんか革が、駄目になるような、気がしますけど【反応要求】

0580-K うんあの革、ていひんってゆうのは、えーと本来あれ一糎す時に大量の水で糎すんですよね、でーですから別に、濡れること自体全然問題ないんです実はあれ

0590-C んー

0600-K あの問題はあの乾かし方が問題で、ええ、あれはあの一、何すかあの、例えばえーと火ーとかまあそういった乾燥機みたいなので、乾燥させちゃうとが、ガチガチになっちゃうんですけど、あれ日陰でゆっくり乾

かせば、大抵の場合は問題ないですあれは

0610-C あーそうなんですね

0620-K ええ、で (a) 特に革靴なんて元々雨の日とかでも履けるような物なんで、全然実は問題ないんですよあれ

0630-C へー、えじゃそれを、えとー、ま安く買ってきてー、洗って？ってことですか

0640-K あそうですね、で

0650-C 水で洗ったりして、きれいに、しちゃうってことですか？【問いかけ】

0660-K そうですね、で (b) あの大部分の場合型崩れしてるんで、(c1) で型崩れしたのは実は水で洗うと柔らかくなりますから

0670-C はい

0680-K (c2) それあの乾燥する時にえっとー、えーとし、えーとし、あれですねシュウトゥリーってゆうあの靴中なか入れる、が、はい、あいつきちんと入れて、えーと、えー保管しとけば、大部分の場合あの型崩れ直っちゃうんですよ

(15) では、「革靴を洗うと革がダメにならないのか」と相手に質問され、それに対して答える文脈で、(a)で「水に濡れても全く問題がない」と話者は答える。その理由として「雨の日でも革靴は履けるものだ」という一般的な事実を挙げている。話者は「から」を使って、自らの信念（他者の信念とも一致すると思われる）を披露しながら語ることも可能である。続いて「水洗いして古い革靴をきれいにするのか」という相手の問いかけに対して、(b)で肯定を表し、その理由は、「古い革靴はたいてい型崩れしている」と答える。(c1)で「から」文が現れる。「水で洗うと革は柔らかくなる」という話者にとっては当然のこと、すなわち信念をここでは披露して、それを根拠にして、(c2)のように「乾燥のときにシューツリーを入れて保管しさえすれば型崩れが直る」と説明する。(a)と(c1-2)を比べてみると、それぞれの拠り所は「革靴は雨の日でも履ける」ことと「革が水で洗うと柔らかくなる」ことであり、前者は後者より相手にアクセスしやすいことだということがわかる。(a)でわざわざ「から」を使わなかったのは、話者が相手にとってアクセスしやすいと思ったからだろう。

(16) JJJ19-I

2250-C えーとどんな公園ですか【問いかけ】

2260-K えーと一、(a) まあ、こっちの地域ではたぶん最大級の公園で一、
ま、駅からもわりと近くて、えーとフリースペースが充実してたり一、ま
た中に入ればアクティビティが、充実してたりするので一、いろいろとこ
う、まあ私も、あの保育園の頃から、ずーっとこう、なんか何かあれば、
そこに遊びに行くってゆう、ぐらい

2270-C あ、そうなんですね、今もよくい、行かれます？【問いかけ】

2280-K 今はもう行かないです {笑}

2290-C あーそうなんですか、残念 {笑}

2320-K んー (b) 近いから行かないんでしょうかね一、 やっぱりあのお子
さんがいる同僚の方とかは、よく行かれたりとか

(16) では、「その地域の公園」についての質問に対して、話者は (a) のように「保育園児の頃からよく遊びに行く公園である」ことを答える。その理由として、「最大級の規模で、駅からのアクセスもよく、フリースペースやアクティビティが充実している」という一般的なことを挙げる。ここで話者の信念（他者の信念とも一致すると思われる）を披露しながら、「から」を使ってもよいところであるが、傍点を付した「まあ」「いろいろと」「こう」「なんか」といったフィラーに近い副詞が複数使われていることから、そこまで積極的ではないことがわかる。さらに関連する質問で「今もその公園に行くか」と問われ、否定的な答えをする。その理由として (b) で「から」が使われている。ここで主節の述語に推量の助動詞が使われているところに注目されたい。自分の行為を推論しているのであるが、その拠り所とする根拠は、「近いところにはわざわざ行かない」といった話者の価値観、あるいは信念からくる習性、あるいは一般的傾向などの解釈が可能である。いずれにしても「から」を使うことによって話者は自分を客観視しているのである⁶。

6 武内 (1995) では「前件 {の／から} 後件」文で話者が伝達したいのは「の／」文では前件で、「から」文では後件であるといったことを述べているが (pp. 116-117)、(b) は前提となるのは後件で、その拠り所、つまり話者にはそういう信念あるいは習性があるからなのかと自問するような例は他にも見られる。

(17) JJJ54-I

(C が K に奈良でよく食べていたものを尋ねる。)

2120-K 奈良で特にそうだなー、好んでむー食ってたものとかつてのはあんまないかもしれないですね、ただこっちに引っ越してきて、でえっとーこっちとにかくあの今年の冬あんまり、今年も去年もあんまりみかん、とかー、梨と、えー柿とか買わなかったんですよ、でーこっちで、だつまりこと、こっちとゆうか、去年とか今年とかはなんか妙にみかんとか柿とか高いなーと思ってたんですが、あれ違うんですよねたぶん、あの、奈良が安いんですよみかんとか柿とかが

2130-C あーそうなんですか【反応要求】

2140-K ええ、(a) みかんなんかもやっぱりその和歌山とかがすぐ近くなん
で、まあ、すごく安く、あ手に入りますし、(b) 柿なんかもやっぱり柿も、ね
奈良でも、和歌山でも相当採れますから、まあかったんですねあれたぶん、
ええ

(17) では、相手の反応要求に対して、(a) では、話者は「奈良ではみかんが安い」と繰り返し答える。その理由として、「奈良は和歌山に近い」という一般的に知られていることを挙げている。ここで「から」を使うことも可能であるが、なぜ「ので」を使ったのか。それは連続する「から」文との比較で明らかになる。(b) では「収穫が多ければ、その作物は安く手に入る」という一般的な信念(真理)に基づいた解釈、あるいは話者の信念に基づいた解釈が可能である。ここは(a)と同じように「ので」を使うことも可能であるが、ここでわざわざ「から」を使ったのはなぜか。相手のアクセスのしやすさを考えると、「奈良の位置」は「奈良における柿の収穫量」よりアクセスしやすい。アクセスしにくいことを説明するには、一般的なことを利用して説明するか、または、とにかく自分が知っていることを基にして相手に説明するかである。前者なら相手のことを考慮した説明になるし、後者なら独りよがりな印象を与えることになるが、「から」の説明にはいずれの可能性も伴う。

以上をまとめておく。相手の質問に対して、まず「ので」文から始めることで、相手にアクセスしやすいことから説明し、「から」文ではアクセスしにくいことを説明する。あるいは、まず「ので」文から始めることで、自分に卑近な出

来事から説明し、「から」文では自分を客観視して説明する。

2.7 2節のまとめ

2節の観察をまとめておく⁷。

話者の談話の形式	理由・根拠	備考
p からq (一回)	話者の価値観や信念 (一般的な価値観や真理)に拠る	他者のことも
p のでq (一回／複数回)	話者の価値観や信念に拠らない	
(先行)p からq (後続)p のでq	(先)話者の価値観や信念 (後)具体的	総合的な説明から個別の説明へ
	(先)過去の自分を客観視 (後)現在の自分	
(先行)p のでq (後続)p からq	(先)相手にアクセスしやすいこと (後)相手にアクセスしにくいこと	
	(先)自分に卑近なこと (後)自分を客観視	

3 理解や同意のためのやりとり

要求に対してそれに答えるといった相互行為のやりとりとは別の次元で、双方の間で理解や同意を表示したり、理解を促したりといった態度を表すやりとりをここでは観察するが、便宜的に以下の三つのやりとりに分ける。

- ① 相手の背景の理解
- ② 相手への同意
- ③ 相手に理解を促進

7 益岡・田窪(1992)では、「ので」は、与えられた事態の性質から、一般的知識として導き出すことのできる、別の事態を述べる場合に使い、「から」は自分の責任で下した判断や態度の根拠を相手に示すとしている。一般的知識から導きだされる結論であっても、本稿の議論のように、話者が自らの価値観に拠らずに判断するときには「ので」が使われる。また、自らの価値観によって判断するときには「から」が使われる。

3.1 相手の背景の理解

内容は理解できるが、背景知識がなく、相手の説明が十分に理解できないときがある。そんなとき、なにかがヒントとなってその背景がわかる瞬間がある。そういうときの話し手の理解の拠りどころは「から」で表される。

(18) JJJ05-I

(K が 2 か月前に読んだ小説の内容を詳細に説明する。)

0970-C ふーん、すごい、すごいってゆうか、いろんなことをもうほんとに覚えてらっしゃるんですね、細かい名前とか【K の背景はわからないが、よく小説の内容を覚えていることに C が感心する】

0980-K (a) 最近一、はい読みましたんで

0990-C (b) あっ最近読んだから、あーなるほど、そうなんか会社の名前までしっかり {笑}

(18) では、相手が小説の内容を詳細に覚えていることに興味した話者は、直前の相手の発話 (a) を聞き、納得するのであるが、その理由が「から」で表されている。(b) の発話冒頭の感動詞「あっ」が話者の理解の瞬間である。また、(a) では「ので」が使われ、(b) では「から」が使われているところにも注目されたい。(a) では相手が単に自らの理由を述べるところなので、「ので」が使われ、(b) では相手のことで、話者にとっては他者の事情なので、自らの価値観や信念を利用して論理的に理解するしかないことから、専ら「から」が使われる。

(19) JJJ09-I

0230-C あーそうだったんですね昨日の夕飯って何だったんですか？

0240-K (a) 夕飯は、おでんですね

0250-C (b) へー、あちよつと涼しくなったから

0260-K (c) なったので

0270-C 美味しいかもしれないですねー

(19) では、相手の発話 (a) の内容の理解は瞬時にできただろうが、(b) の冒頭の感動詞「へー」から話者はその背景の理解に若干時間がかかったと考えられる。感動詞「あ」の瞬間に、話者はそれを理解し、相手の「夕食がおでんだった」理由を自分なりに（つまり、「涼しくなるとおでんが美味しい」といった話者の価値観（他者の価値観と重なる可能性もある）で）理解、納得する。ここではそれに続く相手の発話に「ので」が使われていることにも注目されたい。(c) のように自らの行為の理由を述べる場合は「ので」が使われ、(b) のように相手の事情は推測するしかないので、専ら「から」が使われる。

3.2 相手への同意

先の観察は不確かな相手の背景を話者が理解した瞬間に使われる「から」であったが、ここで観察するのは、相手のことを十分に理解し、かつ同意を示すときにその理由を「から」で述べる例である。

(20) JJJ55-I

（水泳をしている K が最初泳げなかったことを語る。）

0550-C {笑} へーそうなんですね、でも確かにこう高校過ぎると自分で行こうと思わないと、泳ぐ機会ないですもんねー

0560-K んー、ないですよー、んーそんなちゃんと泳ぐま、海行ったりしたかな、海行っただとしてもそんな泳いだりはしないじゃないですか

0570-C そうですよー、こうちょっとう

0580-K そうそう

0590-C (a) ヒュウヒュウヒュウとそ、そこまで行くみたいな感じですよんねー

0600-K (b) そうそう、んー水に浸かってみたいな感じだからー

0610-C 確かに

(20) では、(a) で相手が「海では岸からちょっと泳ぐ程度だ」という意見を述べたのに対して、(b) で「海水浴ではほとんど水に浸かっている感じだ」ということを理由に同意を示している。冒頭の感動詞「そうそう」が前小節のものと異

なることにも注意されたい。

(21) JJJ44-I

(10 年後 20 年後に住むとしたら、田舎と都会どちらを選ぶかという質問に対して、K が都会の方が便利だから、都会の方だと答える。)

2590-C あーなるほどねー、んー確かにそうですねー、まあ、でも、田舎ーにもいい面はあるのかなーっていうふうに

2600-K そうですね

2610-C 思っていて、(a1) 例えば、まあ将来ねお子さんが、ね、あの何人か、いたとしたらー、やっぱりこう、都会だと危ないとか

2620-K そうですね

2630-C (a2) 空気が汚いとか、なんかのびのび田舎のほうが、成長できるのかなとか、ちょっとそういう面も

2640-K そうですね

2650-C (a3) あるのかなって思うんですけど

2660-K (b) あの、子供だったら遊び場所もあの、公園は、あの、田舎のほうが、広かったりしますからね

2670-C んー、ねー、か、まあ田舎も結構捨てたもんじゃないかな

(21) では、(a1-3) で相手が「子供にとっては田舎の方がいい」といった意見を陳述したのに対して、(b) で話者は相手に同意を示し、その理由を「から」で示している。

相手に対する同意を示すとき、その理由に「から」を使うのは、前小節の「相手の背景の理解」の場合と同じく、他者の事情は話者の価値観や信念を利用して推論するしかないからである。

3.3 相手に理解を促進

前の二つの小節では話者の理解あるいは同意を表すための「から」が使われる例を観察したが、ここでは相手に理解を促進するための「から」を観察する。

(22) JJJ02-I

(海外ドラマ『グリー』は高校生のグリー部のメンバーが織りなすドラマであると K が説明する。)

1360-K でもそこで頑張るってゆう、青春ものでー

1370-C (a) なんか、えっと、あ青春ものか

1380-K (b) 高校生ですからね

(22) では、(a) で、冒頭の副詞「なんか」や感動詞「えっと」からわかるように、相手が「海外ドラマ『グリー』が青春ものだ」ということに理解半ばであるのに対して、(b) で話者が相手に理解を促進するために、「高校生ドラマであれば、青春ドラマだ」という一般的な真理を利用して、理由づけをしている。論理的であるから、相手に念押しするような印象を受ける。

(23) JJJ23

(C が K に以前住んでいた高知について尋ねる。)

2140-K で、んーっとね、どうゆうところが良かったかってゆうとー、まあ山しかないんですよ、で日照ち時間ってゆうのが日の当たる？、で、日本一位なんですよ

2150-C (a) へー

2160-K で日本で一位は、実際には岡山なんですけど、瀬戸内気候で、(b) でも日の当たってる長さでゆうと、高知の方が一番当たってる、海しかないから、{笑} ずっと太平洋でもう、何にもない

(23) では、話者が「高知は日照時間が日本一だ」と言ったのに対して、(a) では感動詞「へー」からも相手はやや理解半ばである。そこで、(b) で相手に理解をさらに促進するために、「周りに遮るものがなければ、日当たりの時間が長い」という一般的な真理を利用して、理由づけをしている。

(24) JJJ10

（もらえとしたら、お金と時間のどちらを選ぶかという質問に対して K がお金だと答える）

3710-C お金を選びますか

3720-K ま、だ私の中で六十歳ぐらいまで生きればいいと思ってるのでー

3730-C (a) そうなんですか

3740-K はい、(b) 子供も一応全部独立させてー、迷惑かけないでころって逝くのが理想だからー

3750-C うーんそうなんですかー

(24) では、話者が「六十歳ぐらいまで生きればいい」と言った相手の反応は、(a) の通り、理解半ばである。そこで、(b) で相手の理解を促進するために、「理想があれば、そうしたいと思う」という話者の価値観や信念に基づいて、理由づけをしている。そのため若干独善的に聞こえる。

3.4 3 節のまとめ

3 節で観察したことをまとめると次のようになる。相手とのやり取りの中での直前の話者あるいは相手の理解度、理解や同意の対象、「から」が表す理由をそれぞれ記述しておく。

直前の話者の理解度	理解の手段	対象	から
十分でない	話者や一般の価値観や信念	他者(相手)のこと	相手を理解した理由を表す
十分	話者や一般の価値観や信念	他者(相手)のこと	相手に同意した理由を表す

直前の相手の理解度	理解の手段	対象	から
半ば	話者や一般の価値観や信念	他者(話者)のこと	相手に理解を促進する理由を表す

4 話者による自由な説明

ここでは話者が自由に説明をする談話を観察する。インタビュー形式の談話であっても、「何かについて教えてください」といった質問は話者にかなりの自由度を与える。そのような談話をここでは観察する。

(25) JJJ23-I

1300-K 映画、で一あれでたまたまやってるのをう、見た映画、『ゴースト、ニューヨークの幻』

1310-C 教えてください

1320-K デミムーアが一、デミムーアってゆうあのハリウッドの女優さんが、主人公なんですよ、で、彼氏がいるんで、あ、婚約者がいる

1330-C はい

1340-K で婚約者のこう、名前ちょっと忘れたんですけど一、ま、その彼が一、と証券会社に勤めてる、ウォール街のエリートサラリーマンなん、で、登場人物は、彼と、その、彼女であるデミと、で、あとその証券会社の、悪党が二人いるんですね

1350-C はい

1360-K で、まその悪党が一、友達なんですけどその彼氏の友達なんだけれど、ま一緒に暮らしてるんですよ、一緒に暮らしてるんだけど、ま、横領して着服して、でまあ色々あって、で、その彼氏を殺したんです、で殺して、で、彼は一い、成仏できないからゴーストになったんですよ

1370-C はいはいはいはい

1380-K 幽霊なった、で、彼女は命を狙われてるんです、その、ちょっとね、細かいその、事件の、とゆうか、ま (a) 彼女が生きてたらばれちゃうから、殺しとかないといけない、んですね

1390-C うん

1400-K で、でもその、殺されたゴーストになった彼氏は、彼女を守ろうとして、彼女の職業は陶芸家です、で、もうずっとゴーストになってつきまとうんです (うんうんうん)、つきまとうってゆう言い方あれだけど、(b) もうずっとそばにいて、で、幽霊だから、彼女のことが見えるし話しかけ、ることもできるんだけど一、触ることはできないし気づいてもらえないし、で、たまに、念力で動いたりするんですね

1410-C うんうんうん

1420-K で、彼女が危ない目にあってて一、で、その一、まあ悪党が、友達なんだけれど、仮にトニーとしますよね、トニーってゆう名前だったとしますよ、でトニーがこう出入りして一で彼が死んで寂しいだろうとか慰めにき、来ても、触るなって思ってるとう、念力で、ガラスが割れたりとか、そういうこともできる、ようになってきたんです

1430-C うん

1440-K で、そのゴーストが、で、彼女を守るために一、その地下鉄とかで知り合ったこうやっぱり成仏できないゴーストがニューヨークにいるんだけど、ファンタジーですよ、で、そのゴーストに、あの、なんか、アイデアとゆうか、ヒントを貰いに行くんすね、こう自由に物を飛ばしたりとか一、人を殴ったりとか手を掴んだりとかってゆうことの、レッスンを受けるわけです、地下鉄で

1450-C うーん

1460-K で、まあそのゴーストは、突き落とされて殺された、で(c) 成仏できないから、地下鉄のホームにずっといるってゆうゴーストなんだけどそこは縄張りなんですって、ちょっと友情が芽生えたりして、で、まあ彼女を助けて、成仏したい、ってゆう、感じなんだけど(d1)とにかく彼女を守らなきゃいけないんで、それで、また、あの一、仲間を見つけるために

1470-C うん

1480-K (d2) エーと祈祷師とゆうか一、靈感の強い人みたいな、ちょっと怪しい人がこうスラム街に、ニューヨークのスラム街にいるんだけど一、その人ともコンタクトを取って

1490-C うん

1500-K で、なんかゴーストと一、その、生きてる彼女の？、あの、あじゅ、間に立って、で彼女の、命を助けてあげたいってゆうことで、で間に入ってもらうんその、霊媒師に乗り移ったりして

1510-C うんうんうん

1520-K で、そこからもういきなり話飛ぶんですけど、その、着服してた、お金のことも、その霊媒師に、頼んで、で、解決して、でもう彼はもうマフィアに殺されるしかなかったんですよ、

1530-C うん

1540-K で、そのトニーは、でトニーとトニーの友達の悪党二人は、マフィアに殺されて、死神に連れていかれたんですよ、ゴーストになったけど死神に連れていかれたんですよ

1550-C うん

1560-K で、その、彼氏の方は、なんかそれを見届けて、そしたらこう、天国から迎えが来たんですよ、で天国から迎え来てこう、なんてゆうんすかね、後光が、パーッと差して一、で、その彼女は、初めて会うことができるんですよゴーストと、で、やっと会えてこうずっと守ってくれてたってゆうのが霊媒師を通して聞いてはいたんだけどー

1570-C うんうんうんうんうん

1580-K やっと会えて一、で、なんか話も会話もできて一、でずっとそずっとそばにいたんだよって、で、成仏して一、(e) やっと会えたのに別れなきゃいけないってゆう、死んでるから、最後号泣です

1590-C おー、名作ですね

(25) では、自由記述型の解答のように、話者は最近見た映画の紹介をする。相手の知らない映画ということもあって、相手にアクセスしやすいように、話者はできるだけ一般的な価値観や真理に基づいて説明をしているように思われる。そういうところには「から」が使われている。(a) では「目撃者が生きていれば、犯行がバレてしまう」という一般的な考えを利用することによって、「彼女が殺されそうになる」ことが相手に説得的に語られる。(b) でも「幽霊であれば、気づいてはもらえないが、彼女に話しかけたり、触ったり、念力で物を動かしたりできる」という一般的な考えを利用して、幽霊の能力を分かりやすく説明している。(c) でも「成仏できなければ、現世の事故にあった場所を彷徨い続ける」という一般的な考えに基づき、「ゴーストが地下鉄に彷徨っている」ことが相手に説得的に語られる。

それに対して、(dl-2) では副詞「とにかく」に導かれることからわかるように、他と比べると説得力に欠けるような説明をしている。実際「祈祷師のような人にコンタクトを取る」とことと「彼女を守る」ことは一般的な価値観でもなければ、話者の価値観でもなさそうで、この映画の言わば見どころだと思われる。このようなときには「から」ではなく「ので」が用いられている。

最後の(e) では「亡くなれば悲しい」という一般的な考えに基づき、最後は「号泣するほど悲しい」ことが相手に説得的に語られる。

(26) JJJ10-I

(K が最近熱中していることを語る)

0500-K 最近でもなくずーっとはまっちゃってるのがー

0510-C あいいですねはい

0520-K カラオケでー、あの一、前までは人前で歌うのなんて恥ずかしい
 と思って十年以上行かなかったことがあるんですけどー、友達に誘われて
 上手く乗せられて上手くはまってしまっってー、家族は一、まーまたカラオ
 ケ行くの一、行くのは月に一遍だけなんですけど (a) 長い時間歌っている
のでー、あの一「また行くの」っていやいや (b) 先月から行ってないから
一か月ぶりよとか言いながら

0530-C はいはいはいはいじゃあお友達と一緒に？

0540-K 行きます

(26) では、「最近ハマっている」ことはなにかという質問に対して、話者が「カラオケ」について自由に語っている場面で、(a) は個人的なエピソードとして語られている。「長時間カラオケをしている」ことと「家族に『また？』(何回目か)と問われる」ことは話者の価値観とは相容れないものであるため、因果関係のある事実として描かれている。そのようなときは、「ので」が使われる。一方、(b) は「先月カラオケに行ったのならば、一月は経っている」といった一般的真理に基づいた説明をしている。

(27) JJJ18-I

(K が学会でイギリスのある街に行ったときのエピソードを披露する。)

2980-K ほんとに助かりましたね、あれは恐い思いをしました

2990-C ほんとですね、そのまま誰もいなかったら

3000-K はい、もう

3010-C ずっとバス停で

3020-K そうです

3030-C 立ちぼうけとゆうか

3040-K はい、ずっと待つかー

3050-C ですよー

3060-K とゆうか (a) タクシーがいつか来るかもしれないので、(b) 一応乗り場はあるから、そのうち来るのかも、ってゆう思いで、雨も降ってたんですよ、だからもうほんとに

3070-C そうかタクシーもだ捕まりにくい状況ですよ

3080-K たぶん

3090-C 通常だと

3100-K しかもあのすごく田舎なので、ほんとどうしようかと思いましたね

3110-C えー、え連絡、する術とかもなかったんですかその

3120-K 頑張って調べればきっとそのうちー、何とかなったと思うんですよきっと、そこら辺に貼ってある紙のどこ、どれかが、タクシーの、会社だろうとか

3130-C 何かには繋がるだろうと

3140-K はい、まあある、どれか、見たら何とかなったと思うんですけど

3150-C えーえーえー、でもまあ、ねー、けっこう後ろの方の手段ですよ
ねそうゆうのってねー

(27) では、話者が「学会でイギリスのある街に行ったとき怖い思いをした」ことが語られる。(a)の「ので」節の主節は明示的ではないが、「私はタクシーを待っていた」であろう。この個人的なエピソードでは、ほとんど可能性がないかもしれない「タクシーが来るかもしれない状況でタクシーを待っている」ことは、話者や一般的な価値観や信念ではない。逆に、話者は「タクシーが来ないかもしれない」ことを恐れている状況なので、「から」は使えず、出来事を関係性を記述する「ので」が使われている。一方、「タクシー乗り場があれば、タクシーが来る」というのは一般的な価値観であり、話者個人も信じたいことである。これを根拠にするときには「から」が用いられる。

この節での観察をまとめると以下の通りである。

	理由・根拠	説明の対象
から	一般的な価値観や信念（真理）	相手が知らないこと
		論理的なこと
		話者が信じたいこと
ので	出来事の因果関係	話者や一般の価値観や信念に拠らないこと
		話者の価値観や信念と相容れないこと

5 おわりに

以上、I-JAS の対話 (Interview) コーパスのなかで、母語話者 50 名のデータを対象に、「から」「ので」の使用を観察した。全体を通して、次のような記述ができる。

- 話者の価値観や信念（他者と同じであれば、一般的な価値観や信念（真理）となる。以下同様。）に基づいた推論には「から」を使う⁸。
- よって、話者自身を客観視したり、他者について記述するときは、必ず話者の価値観や信念に基づいた推論となることから、「から」を使う。
- 話者の価値観や信念を示すことによって、相手のことを理解したこと、同意したことを伝える。また、話者の価値観や信念を示すことによって、相手に理解を促す。いずれも「から」を使う。
- 相手が知らないこと、論理的なこと、話者が信じたいことを説明するときには、一般的な価値観や信念（真理）を利用する。そのときは「から」を使う。
- 話者や一般の価値観や信念に拠らないこと、話者の価値観や信念と相容れないことを説明するときには、「ので」を使う。

8 中田（2021）は「から」の言いさし文、つまり主節が言語化されない文において、原因・理由から導き出される「必然的な事態」が言語化されない場合と「相手にとっての都合のよさ／悪さ」が言語化されない場合があると指摘している。前者では話者の価値観が表され、後者では話者の信念が表されているように思われる。詳しくは別稿に委ねるが、例えば、「今歯ブラシ出しますからね」という言いさし文は「相手の都合のよさ」が言語化されていないが、それは話者の信念でもあるから、「から」を取った「今歯ブラシ出しますね」とほぼ同等の文となっている。また、終助詞「ね」の用法に「信念」を表す用法がある（中田 2009、他）が、この「から」と終助詞「ね」には共通点がある。

参考文献

- 国広哲弥 (1992) 「「のだ」から「のに」・「ので」へー「の」の共通性ー」カッ
ケンブッシュ 寛子他編『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会、17-
34.
- 田窪行則 (1987) 「統語構造と文脈情報」『日本語学』6-5、37-47.
- 武内道子 (1995) 「「ので」と「から」：関連性理論による分析」『神奈川大学言
語研究』18、111-123.
- 中田一志 (2009) 「発話行為論から見た終助詞ヨとネ」『日本語文法』9-2、19-
35.
- 中田一志 (2021) 「「言いさし文」による語用論的意味についての覚書」『日本
語・日本文化』48、147-168.
- 永野賢 (1952) 「「から」と「ので」とはどう違うか」『国語と国文学』29-5 (服
部四郎、大野晋他編 (1979)『日本の言語学』4 文法Ⅱに再録。467-488.)
- 畠山衛 (2012) 「日本語学習者による原因・理由を表す接続助詞「から」「ので」
の誤用論的使い分け能力の習得を探索横断的研究」『ICU 日本語教育研究』8、
3-17.
- 花井裕 (1990) 「「ので」の情報領域ー「から」の対話性と比較してー」『阪大日
本語研究』2、57-81.
- 益岡隆志、田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法ー改訂版』くろしお出版.

付記：

本研究は JSPS 科研費 JP19H01262 の助成を受けたものです。

〈キーワード〉 原因・理由、「から」「ので」、話者の価値観や信念、一般的な価値観や信念
(真理)

An Analysis of the Japanese Connective Particles '*kara*' and '*node*' in Interactional Discourse

NAKATA Hitoshi

This paper discusses Japanese connective particles '*kara*' and '*node*' in interactions between Japanese native examiners and Japanese native respondents in the interview task data of I-JAS.

For the sake of convenience, dialogues are classified into the three types, according to the binding force of the opponents in the dialogue: the most bound dialogue (such as direct answers to questions or requests of reaction), the most free dialogue (such as free descriptions far from opponent's questions), and the others.

Main findings are as follows:

1. '*Kara*' is used in the explanation supported by speaker's values or beliefs.
2. '*Node*' is used in the explanation not supported by speaker's values or beliefs, or the explanation incompatible with speaker's values or beliefs.